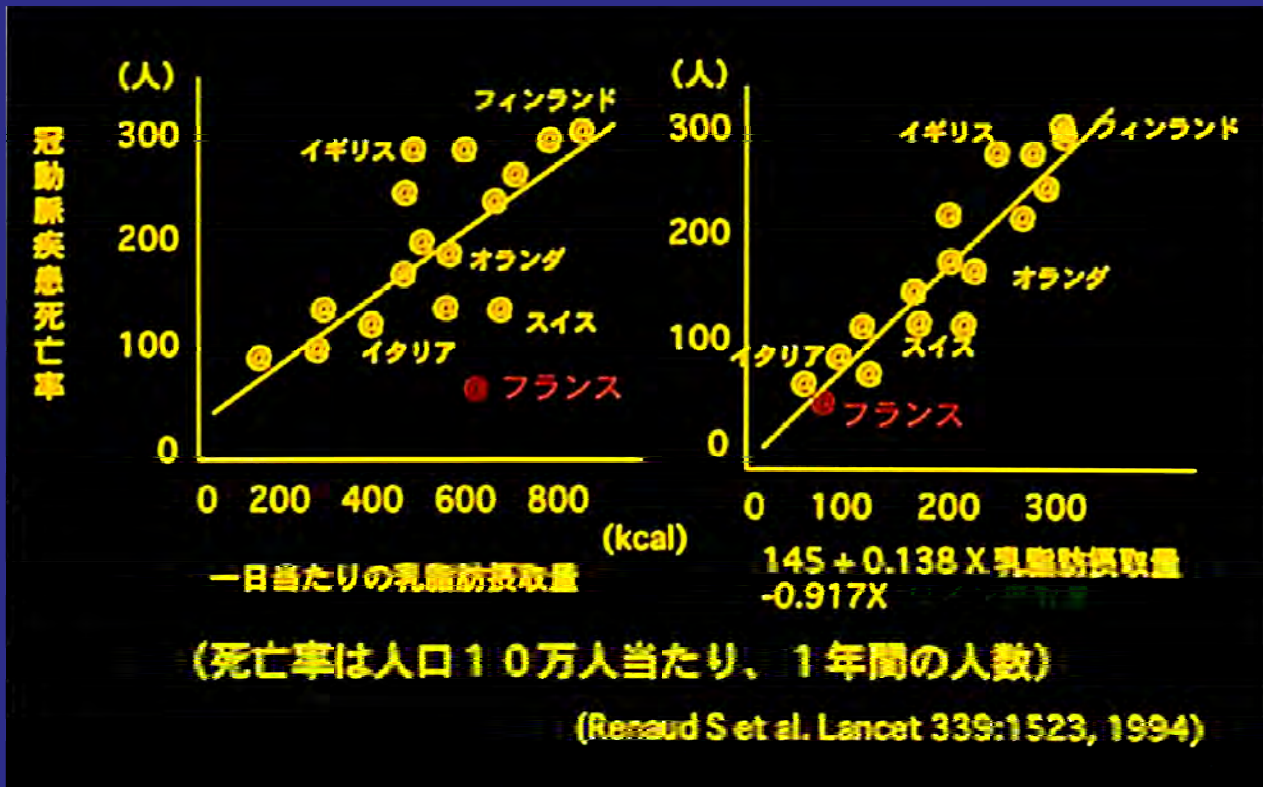


虚血性心疾患とアルコール(1)

1. アルコールは血小板凝集抑制作用を持つ。
(Meade TW et al. BMJ 290:428,1985)
2. アルコール摂取は血管内皮からのt-PA分泌増加をもたらし、線溶系を亢進させる。
(Laug WE. JAMA 250:772,1983)
(Ridker PM et al. JAMA 272:929,1994)
3. アルコール摂取は高HDLコレステロール血症 (HDL2, HDL3とも) をもたらし、それぞれが、虚血性心疾患の発症頻度と逆相関する。
(Fraser GE et al. Atherosclerosis 46:275,1983)
(Gaziano et al. N Engl J Med 329:1829,1993)
4. 赤ワイン中に抗酸化物質、強い血小板凝集抑制物質が含まれている。
(Renaud S et al. Lancet 339:1523,1992)

各国の冠動脈疾患による死亡率と乳脂肪摂取量とワイン摂取量



赤ワインに含まれるポリフェノール

アントシアニン
タンニン
カテキン
ケルセチン
シアニジン
ミリセチン

これらのポリフェノールの重合物が多く含まれ抗酸化能も高い

アントシアニンによる動脈硬化進展抑制の機序

- 1) 生体内において余剰なLDLは酸化され変性LDLとなりうる。
- 2) 変性LDLはマクロファージに処理されるが、変性LDLを処理するとマクロファージは泡沫化する。この泡沫化マクロファージの増殖は血管内皮細胞障害を起こし、動脈硬化を促進する
- 3) アントシアニンはLDLの酸化過程を抑制する

(Frankel EN et al. Lancet 341-454 1993)

高血圧症とアルコール

1. 1日36g以上のエタノール摂取は高血圧症の危険因子である。特にエタノール摂取は収縮期圧の上昇に寄与する。
(Klatsky AL et al. New Eng J Med 296:1194,1977)
2. この寄与は他の高血圧症の危険因子とは独立したものである。
(INTERSALT Study Group. BMJ 297:319,1993)
3. 飲酒者の高血圧症では、節酒による血圧の低下が期待できる。
(Potter JF et al. Lancet 1:580,1981)